

輸出事業計画

※申請者名：気仙沼インド輸出振興協議会

品目：水産加工品及び日本酒等

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・海水温上昇等の環境変化により、気仙沼地域の水揚げ量は減少傾向にある
- ・原材料価格、エネルギー費、資材費、人件費の高騰が続いている
- ・水産練り製品はEU-HACCP、HALAL、FSSC22000等の認証を取得し、東南アジアや北米等への輸出実績を有している
- ・冷凍水産物についても、商社を通じた輸出実績を有している
- ・日本酒は台湾や香港等への輸出実績がある
- ・インド市場では、日本食文化の浸透により、日本産水産加工品および日本酒への関心が高まっている

【課題】

- ・水揚げ減少に伴う原材料価格の高騰により、安定的な供給体制の維持が困難になりつつある
- ・コスト上昇の影響により、国内市場における収益性が低下している
- ・水産加工品および酒類について、インド向けの輸出実績は乏しく、本格的な市場開拓が必要である
- ・冷蔵・冷凍が必要な商品の物流コストが高く、販売価格への影響が大きい
- ・インド市場における販路や流通網の構築が十分でない
- ・人口減少や少子高齢化の影響により人材不足が深刻化しており、安定的な生産・製造体制の維持が課題となっている

2. 輸出事業計画の取組内容

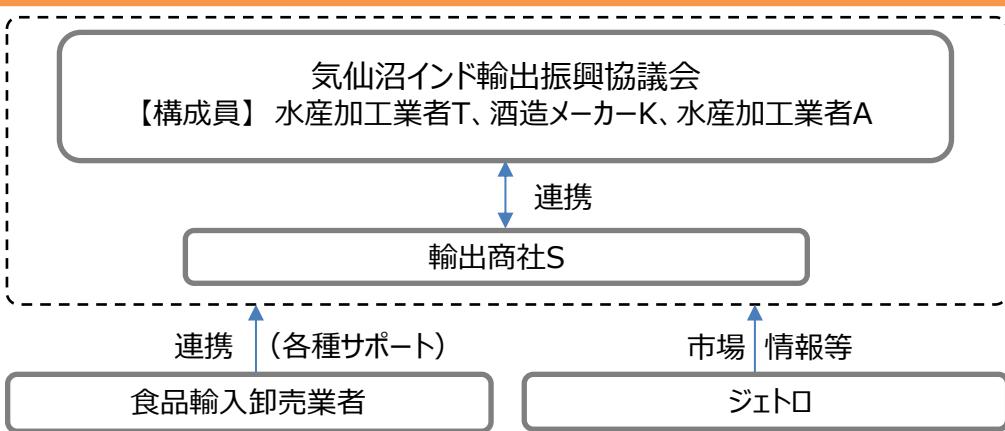
- ・原材料価格の高騰に対応するため、原料調達方法の見直しや、安定的な供給体制の構築を図る
- ・コスト上昇による収益性低下に対しては、販売価格への適正な転嫁および省力化・効率化を目的とした生産体制の改善を進める
- ・インド向け輸出実績が乏しい水産加工品および酒類については、試験的な輸出や商談機会の創出を通じ、段階的な市場開拓を行う
- ・冷蔵・冷凍物流コストの課題に対応するため、まずは常温保存が可能な商品を中心に輸出を行い、物流負担の軽減を図る
- ・インド市場における販路や流通網の未整備に対しては、海外展示会への出展や国内輸出商談会への参加を通じ、現地バイヤーとの関係構築を進める
- ・人材不足への対応として、外国人労働者の活用や採用活動の強化、育成体制の整備を行い、安定的な生産・製造体制の維持を図る

輸出事業計画

※申請者名：気仙沼インド輸出振興協議会

品目：水産加工品及び日本酒等

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



次のPDCAサイクルは、協議会の構成員全体が連携して取り組むものであり、各構成員が役割に応じた責任を持って運用する体制とする。

Plan (計画)

- 原材料価格高騰や人材不足といった課題を踏まえ、インド市場向け輸出の基本方針および対象商品を設定する
- 上位中間層および富裕層をターゲットとし、販売価格、販路、物流方法を計画する
- 常温保存可能な商品を中心とした段階的な市場投入計画を策定する
- 海外展示会出展および国内輸出商談会参加等の販促計画を策定する

Do (実行)

- 外国人労働者の活用、採用活動の強化、人材育成体制の整備により生産・製造体制の安定化を図る
- 既存設備を活用しつつ、計画に基づく商品の製造および輸出を実施する
- 海外展示会や商談会に参加し、現地バイヤーおよび輸出商社との商談を実施する
- 常温保存可能な商品を中心に、試験的な輸出・販売を行う

Action (改善)

- 評価結果を踏まえ、商品仕様、価格設定、販路、物流方法の見直しを行う
- 必要に応じて、省力化機器の導入や新商品開発の検討を行う
- 改善内容を次期輸出計画へ反映し、継続的な輸出拡大を図る

P D

A C

Check (評価)

- 輸出実績、販売数量、商談成果を定期的に把握・分析する
- 物流コストおよび採算性を検証する
- 現地バイヤーからの評価や市場ニーズを整理する
- 分析する

4. 輸出目標額

品目	現状 (R6年度)		目標 (R10年度)		輸出先国
	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	
魚肉ソーセージ	0kg	0千円	346kg	768千円	インド
日本酒・ゆず酒	0L	0千円	1,008L	1,631千円	インド
水産加工品	0kg	0千円	1,982kg	3,472千円	インド
計	0kg	0千円	約3,336kg	5,871千円	